令和８年度 全国学力・学習状況調査の結果について

練馬区立開進第二中学校

本年４月に第３学年を対象として実施した全国学力・学習状況調査について、本校の結果の概要をお知らせします。本調査は、生徒の学力や学習状況の一側面を把握し、今後の教育活動の改善に生かすためのものです。平均正答率の高低のみで生徒一人一人や学校全体を評価するものではありません。

１ 教科に関する調査の概要

教科	本校	東京都（公立）	全国（公立）
国語	72%	68%	63.9%
数学	68%	62%	57%

※　英語３技能はIRT（項目反応理論）を用いた調査であり、公開問題ごとに出題された生徒数も異なるため、国語・数学と同じ表には掲載していません。

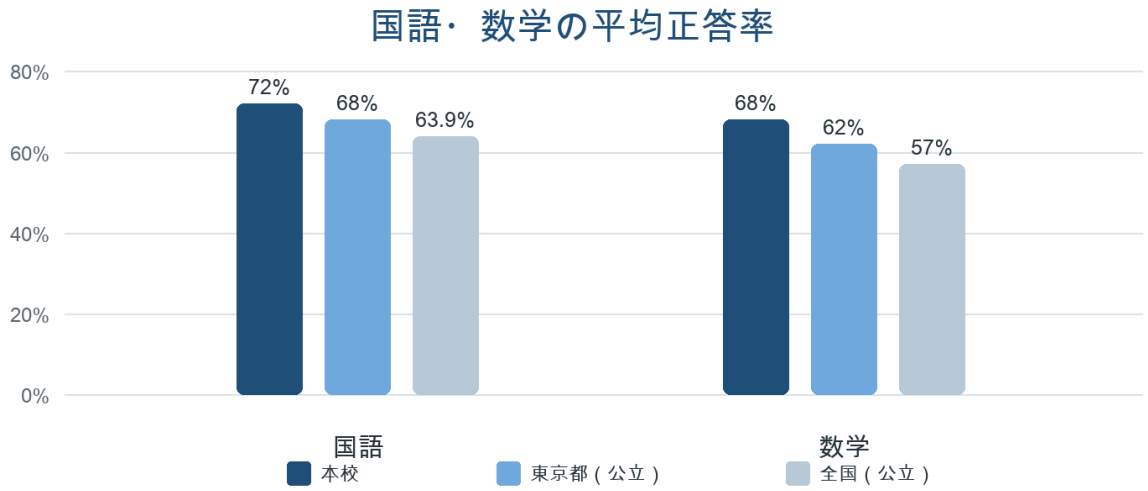


図１　国語・数学の平均正答率（本校・東京都・全国）

国語

【成果】

全体の平均正答率は72%で、東京都及び全国の結果を上回りました。領域別では、特に「読むこと」が72.3%（東京都64.2%、全国59.7%）で、文章の中心的な部分を捉えたり、必要な情報に着目して内容を解釈したりする力が比較的よく身に付いています。

【課題】

書いた文章について交流し、読み手からの助言を踏まえてよい点や改善点を見いだす設問は44.9%（東京都 48.8%、全国 45.0%）でした。今後は、文章を書いて終わりにせず、互いに読み合い、根拠を示して推敲する学習を進めます。

数学

【成果】

全体の平均正答率は 68%で、東京都及び全国の結果を上回りました。特に「図形」は 71.4%（東京都 56.9%、全国 48.7%）で、三角形の合同を基に筋道を立てて証明する設問でも 78.0%（東京都 57.2%、全国 46.1%）でした。

【課題】

データの傾向を二つの度数分布多角形から読み取り、その理由を説明する設問は 37.3%でした。また、文字式を用いて事柄の特徴を説明する設問は 50.0%で、東京都とほぼ同程度でした。今後は、答えを求めるだけでなく、図・式・表・グラフを根拠として説明する活動を進めます。

英語 3 技能（聞くこと・読むこと・書くこと）

英語は IRT（項目反応理論）を活用して集計・分析をしています

IRT とは 問題ごとの難しさを考慮しながら、生徒の学力を捉える方法です。生徒によって出題される問題が一部異なっていても、結果を同じ尺度で見ることができます。そのため、英語 3 技能は国語・数学の平均正答率とは単純に比較できません。

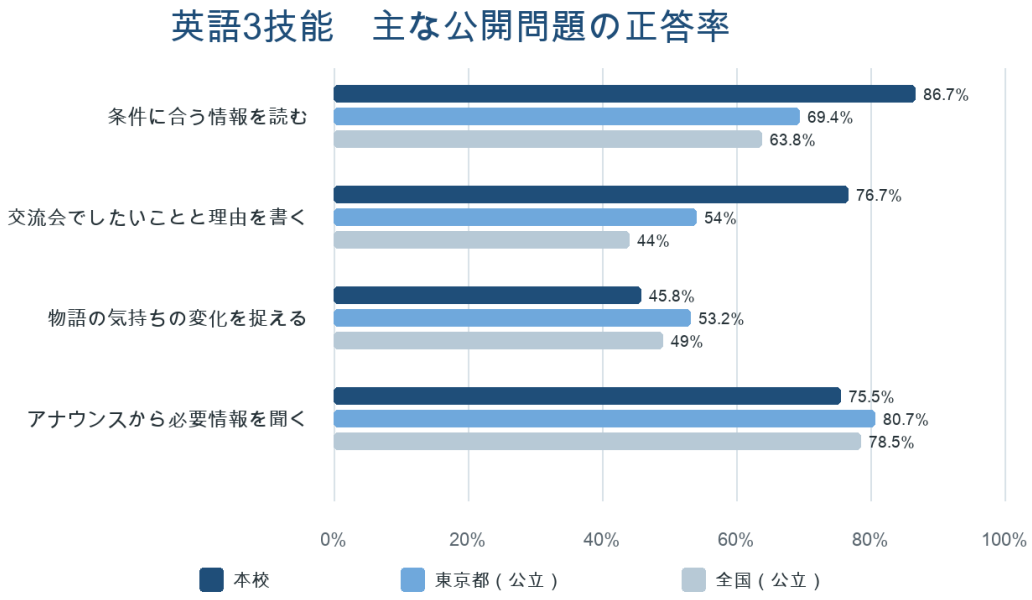


図 2　英語 3 技能の主な公開問題別正答率

※公開問題は、設問ごとに出題された生徒数が異なります。本校全体の平均正答率を表すグラフではありません。

【成果】

公開問題では、条件に合う情報を読み取る設問が 86.7%（東京都 69.4%、全国 63.8%）、留学生との交流会で一緒にしたいことと理由を書く設問が 76.7%（東京都 54.0%、全国 44.0%）となるなど、目的に応じて情報を捉え、自分の考えを書く力に成果が見られました。

【課題】

物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を捉える設問は 45.8%（東京都 53.2%、全国 49.0%）、目的に応じてアナウンスから必要な情報を聞き取る設問は 75.5%（東京都 80.7%、全国

78.5%）でした。今後は、英文全体の流れを捉える読み方と、聞く目的を明確にして必要な情報を整理する活動を充実させていきます。

2　生徒質問調査から見える本校の特徴

生徒質問調査では、次のような肯定的な回答が多く見られました。

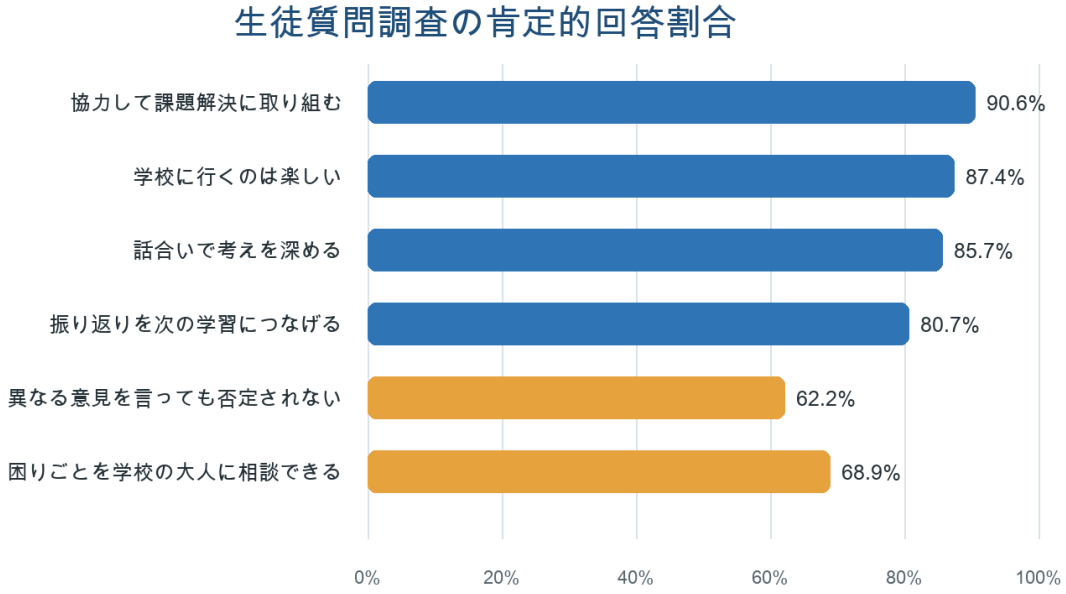


図 3　主な生徒質問調査項目の肯定的回答割合

- 「友達や周りの人の考えを大切にし、協力して課題の解決に取り組んでいる」90.6%
- 「話合いを通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている」85.7%
- 「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができている」80.7%
- 「分からないことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫できている」84.0%
- 「学校に行くのは楽しい」87.4%

これらの結果から、協働して学ぶことや学習を振り返ることについて、一定の成果が表れていると考えられます。ただし、質問調査と教科結果の間に関連が見られても、直接の因果関係を示すものではありません。

「人と違う意見を言っても否定されないと思う」について、肯定的な回答は 62.2%でした。どの生徒も安心して考えを表現し、違いを学びに生かせる学級づくりを、引き続き学校全体で進めます。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的回答は 68.9%であり、相談しやすい関係づくりと相談窓口の周知を一層充実させていきます。

3　今後の授業改善

今回の結果を踏まえ、教科ごとの取組に加え、学校全体で次の 3 点を重点的に進めます。

- 根拠を明確にして説明する活動：資料、文章、式、表、グラフなど、考えの根拠を示して説明する場面を授業に位置付けます。

- 対話と推敲の充実：友達の考えを聞いて自分の考えを見直し、文章や説明をよりよくする学習を充実させます。
- 振り返りを次の学習へつなげる指導：分かったこと、分からなかったこと、次に取り組むことを具体的に振り返る時間を確保します。